

ティーチング・ステートメント

所属 看護学科
名前 今 曜子
作成日 2023. 3. 13

【責任】

看護学科に所属し、2・3年生の母性看護学（概論、援助論、援助論演習、援助技術論演習）の一部講義や技術演習での実技指導、3年生の母性看護学実習、4年生の卒業研究の指導を行っている。また助産師を目指す学生に対する進学説明会の企画運営や実習委員会、卒業研究の運営委員、2023年度から保健管理センター委員業務を担っている。

【理念】

看護学科の学生は大学に「看護師になる」という明確な目的を持って入学する。看護師は専門職であり、卒業時には看護師国家試験に合格する必要がある。4年間で確実に知識と技術を身に付け国家試験に合格することをサポートすると共に、対象者の病や心に寄り添い支援ができる人材を育成していきたい。また専門職として高い知識と技術を持って多職種の中でその専門性を発揮し、更に高めていけるよう、看護師という職業の在り方を伝えていきたい。

看護学生は学習や実習で精神的・体力的に辛さを感じる事が多く、また看護師は命と向き合い、緊張を強いられることの多い職業であるが、看護の楽しさや生きがいを見出していけるような教育を行いたい。講義や実習を通して学生が看護と向き合い、自身の看護観や人生観を形成していく過程に寄り添い、導いていける存在になりたいと思っている。

社会の中で看護師の活躍の場は広がり、働き方も多様になっている。様々な可能性の中から学生が自分の進路を自分で選択し、社会に羽ばたいていけるようサポートしていきたいと考える。

【方針・方法】

上記の理念を実現するために以下の教育活動の方法・方針を取り入れている。

方針1

国家試験に向けて確実に効率的な学習ができるようにする。

方法

- ・講義資料や試験問題は国家試験の出題基準を考慮し、作成する。
- ・小テストを行い、知識の定着を図る。
- ・学生が講義に飽きないよう、動画やDVDの活用および、実習や臨床ですぐ実践に繋がる知識・技術の伝達を心がける。
- ・遠隔授業でも学生が十分に学びを得られるよう、事前の講義資料の配信、遠隔会議システムのスムーズな進行とチャット機能を用いた学生への音声・画像トラブル等の確認を適宜行う。
- ・講義内容に関して学生が疑問を抱いたままにならないよう、講義中に質問の有無の確認と、講義後にHUS-UNIPA上で質問を入力できる機会を設ける。学生が質問しやすい雰囲気作りを行う。
- ・講義が一方向的にならないよう、学生の反応を確認しながら進めるようにするとともに、講義の進め方の速さや講義資料の見やすさ等、講義後に学生がHUS-UNIPAを用いて自由に感想を入力できるようにする。

方針2

学習や実習を通して学生が看護観や人生観を形成していく過程に寄り添う。

方法

- ・臨床実習での体験機会を増やし、また看護の振り返りを行うことで学びを深められるようサポートをする。
- ・実習において、学生は臨床の空気に触れて緊張状態になりやすい。適度な緊張感を大切にしつつ、学生がもっている良さを出せるような関わり・雰囲気作りを行う。
- ・学習や実習での成功体験を得られるようサポートを行い、学生が看護に楽しさや生きがいを見出せるようにする。
- ・学生の身体面・精神面に配慮し、臨床での看護の実施と実習記録とのバランスを考慮した実習内容を計画する。
- ・自分自身も学生にとってのロールモデルの1人となる。
- ・将来の選択において、多くの選択肢と可能性があることを学生が知る機会を設ける（助産進学説明会の開催など）。

方針3

学生と信頼関係を築くことで学生をよく理解し、サポートできる存在となる。

方法

- ・講義の開始・終了時間を守る（ルール・約束を守る）。
- ・学生とコミュニケーションを図り、話しやすい関係性を築く。学生が困難に陥った際にも助けを求められる存在となる。
- ・学生を尊重した態度で関わる。指導が必要な際でも学生の考え・意見を傾聴し、学生の理解に努める。
- ・学生の意見を真摯に受け止め次の講義や実習に反映させる。
- ・自分自身も学習会や研修会、学会等に積極的に参加しスキルアップに努め、人間力を向上させる。

【成果・評価】

- ・講義は開始時間・終了時間を予定通り行うことができた。
- ・講義に関して「講義資料が見やすい」という感想があった。一方で「講義資料に穴埋めが多く、講義中に書くのが間に合わなかったのもっとゆっくり講義を進めて欲しい」という意見があり、以降は学生の様子を確認しながら講義を進めた。
- ・科目責任者の教員より授業内容について「良かった」とう評価をいただいた。
- ・助産進学説明会の開催後、「助産師になることを決めた」と報告してくれた学生がいた。

【目標】

- ・臨床実習では臨床指導者と情報共有を密に行い、より学習効果が深まる実習となるよう指導を行う。（2023年12月）
- ・まだ学生の顔を名前が一致していない学生がいるため、自分が関係する講義・実習の学生は全て覚える。（2024年3月）
- ・研究活動を勢力的に行い、看護研究の指導力を向上させる。（2026年3月）
- ・教員として、また人としてたくさんの経験を積み、指導力・人間力の向上を目指す。（2028年3月）